

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|--------------|---------------------|
| 科目名 | 進路研究 I | 指導担当者名 | 就職担当職員 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 全学科1年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 28時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 就職を含めた進路活動を始める前の準備完了を目標とする。 ・就職を含め進路に対する考え方の確立 ・履歴書ECなどの各種書類を書けるようになる ・就職面接時の基本的な動作、マナーを身に付ける ・就職活動をする際や社会人としての電話対応やメールの書き方などを身に付ける | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | |
| 使用教材 | SUCCESS | | |
| 授業外学習の方法 | 各授業実施前後の予習と復習の徹底をする | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 前期 | 1 | 就職活動の心構え | 導入・フォーム使い方・働く意義 |
| | 2 | 企業が求める人材とは | 会社選びの価値観・社会人基礎力 |
| | 3 | 就職活動の流れ・目標 | A&D就職活動のルール・ライフデザイン |
| | 4 | 自己分析で考えるポイント | 過去・現在の自分史(基礎編・進化編) |
| | 5 | 職業を知る・情報収集 | 情報収集・ネット求人閲覧 |
| | 6 | 自己PR | 業界、会社に沿う自己PR作成 |
| | 7 | 志望動機 | 業界、会社に沿う志望動機作成 |
| | 8 | 電子メール | 電子メール・資料請求 |
| | 9 | 求人票の見方 | 求人票の見方・インターンシップ |
| | 10 | Excel実習 | 就職に役立つExcelの活用 |
| | 11 | 業界研究 1 | 志望する会社の選定・情報収集 |
| | 12 | 業界研究 2 | 志望する会社の選定・情報収集 |
| | 13 | 業界研究 3 | 志望する会社の選定・情報収集 |
| | 14 | 期末試験 | 一般常識試験 |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)(改定案)

| 科目名 | 進路研究 I | | 指導担当者名 | 就職担当職員 | |
|--|--|---------|------------------|--------|--|
| 実務経験 | | | | 実務経験: | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 全学科1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 単位数 | 28時間 | | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | 就職を含めた進路活動を始める前の準備完了を目標とする。 ・就職を含め進路に対する考え方の確立 ・履歴書ECなどの各種書類を書けるようになる ・就職面接時の基本的な動作、マナーを身に付ける ・就職活動をする際や社会人としての電話対応やメールの書き方などを身に付ける | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | | | |
| 使用教材 | SUCCESS | | | | |
| 授業外学習の方法 | 各授業実施前後の予習と復習の徹底をする | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 後期 | 1 | 履歴書の書き方 | エントリーシート・履歴書・添え状 | | |
| | 2 | 制作書類 1 | 業界、会社に沿う自己PRの作成 | | |
| | 3 | 制作書類 2 | 業界、会社に沿う志望動機の作成 | | |
| | 4 | 企業訪問 | 企業訪問 | | |
| | 5 | 面接試験対策 | 入退室・面接形式・受け答え | | |
| | 6 | 就職試験 | よくある質問・圧迫面接 | | |
| | 7 | 作文・論文 | 筆記試験対策・適性検査・作文 | | |
| | 8 | 制作書類 3 | 業界、会社に沿う書類の作成 | | |
| | 9 | 制作書類 4 | 業界、会社に沿う書類の作成 | | |
| | 10 | 制作書類 5 | 業界、会社に沿う書類の作成 | | |
| | 11 | 面接対策 1 | 業界、会社に沿う面接対応の練習 | | |
| | 12 | 面接対策 2 | 業界、会社に沿う面接対応の練習 | | |
| | 13 | 面接対策 3 | 業界、会社に沿う面接対応の練習 | | |
| | 14 | 期末試験 | 履歴書の修正・提出 | | |
| | 15 | | | | |
| | 16 | | | | |
| 履修上の留意点 | | | | | |
| 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|-------------|---|----------|--|
| 科目名 | クロスオーバーゼミ I | | 指導担当者名 | 志村、佐藤、渡邊 | |
| 実務経験 | | | | 実務経験: | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 全学科1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | パソコン。筆記用具 | | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 | | |
| | 2 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 3 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 4 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 5 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 6 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 | | |
| | 7 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 | | |
| | 8 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 9 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 10 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 11 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 12 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 | | |
| | 13 | 前期期末試験 | | | |
| | 14 | 前期振り返り | | | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 | | | | | |
| 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|-------------|---|----------|--|
| 科目名 | クロスオーバーゼミ I | | 指導担当者名 | 志村、佐藤、渡邊 | |
| 実務経験 | | | | 実務経験: | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 全学科1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | パソコン。筆記用具 | | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 17 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 | | |
| | 18 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 19 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 20 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 21 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 22 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 | | |
| | 23 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 | | |
| | 24 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 25 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 26 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 27 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 28 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 | | |
| | 29 | 後期期末試験 | | | |
| | 30 | 年間振り返り | | | |
| | 31 | 期末試験フィードバック | | | |
| | 32 | 期末試験フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期ともに総授業時数の80%以上の出席をしていること ・授業ないの成果物の評価・最終授業でのレポートの提出 ○評価はA~Dとし、A(優:100~80点)B(良:79~70点)C(可:69~60点)D(不可:59点~) ○対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|--|-----------------------|-----------------------------------|------------|
| 科目名 | 音響学概論 I | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 |
| 実務経験 | コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事 | | | 実務経験： 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義：○ | 演習： | 実習： | 実技： |
| 時間数 | 56 時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <p>(前期) 音響の仕事を理解する、プロが使う音に慣れる、オーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習 (後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | テキスト: 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | | | |
| 授業外学習の方法 | 音に注意を払った音楽、映画鑑賞、クラシックコンサート等生音のライブ鑑賞 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | どうしてこの学科を選んだかの質問 | |
| | 2 | 音響技術者の違い | レジュメ | |
| | 3 | 検定試験の概要 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | |
| | 4 | バイノーラルとステレオフォニック | 楽器音再生 | |
| | 5 | オーケストラ楽器のヒアリング | 楽器音再生 | |
| | 6 | 学科試験問題演習、ヒアリング演習 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、楽器音再生 | |
| | 7 | 学科試験問題演習、ヒアリング演習 | " | |
| | 8 | 学科試験問題演習、ヒアリング演習 | " | |
| | 9 | 学科試験問題演習、ヒアリング演習 | " | |
| | 10 | 前期試験 | | |
| | 11 | 3級受験直前学科演習 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | |
| | 12 | 3級受験判断等試験(ヒアリング) 直前演習 | 楽器音再生、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | |
| | 13 | 本試験 | | |
| | 14 | 試験結果答え合わせ | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | |
| <p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p> | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|--|---------------------|---|---------------|---|
| 科目名 | 音響学概論 I | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 | |
| 実務経験 | コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <p>(前期) 音響の仕事を理解する、プロが使う音に慣れる、オーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習 (後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | テキスト: 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | | | | |
| 授業外学習の方法 | 音に注意を払った音楽、映画鑑賞、クラシックコンサート等生音のライブ鑑賞 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | ミキシングエンジニアの役割 | レジュメ | | |
| | 2 | 安全について、非常放送・火災警報器 | 事務室火災警報器、非常放送見学、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | | |
| | 3 | 音量、音質について | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 4 | 楽器の発音構造 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 5 | 人間の声の特性 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 6 | ホールの構造 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 7 | EQについて | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 8 | エフェクターについて(リバーブ) | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 9 | エフェクターについて(コンプレッサー) | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 10 | 後期試験 | | | |
| | 11 | ステレオ録音 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | | |
| | 12 | 圧縮~リニア~ハイレゾ と音響心理 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生 | | |
| | 13 | 期末試験 | | | |
| | 14 | テスト答え合わせ | | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | | |
| <p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p> | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|--------------|----------------------------------|--------|
| 科目名 | サウンドレコーディング概論 I | | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 28 時間 | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | (前期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | | |
| 使用教材 | サウンドレコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集 | | | |
| 授業外学習の方法 | 実際にスタジオでの機材を目で見て、手で触って確認をする。 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| | 1 | オリエンテーション | レコーディングを中心とした技術の理解と実際。 | |
| | 2 | 音の性質 | 音の3要素。dBと音圧レベルの理解と計算方法。両耳効果とステレオ | |
| | 3 | 音響物理基礎1 | 音と音波 | |
| | 4 | 音響物理基礎2 | 音に関する物理量 | |
| | 5 | 音響物理基礎3 | 音の尺度 | |
| | 6 | 電気音響基礎1 | 電気基礎 | |
| | 7 | 電気音響基礎2 | 基本回路 | |
| | 8 | 電気音響基礎3 | オーディオ回路 | |
| | 9 | 音響機器1 | マイクの種類と作動原理 | |
| | 10 | 音響機器2 | コンソールの種類と機能 | |
| | 11 | 音響機器3 | 記憶媒体の歴史 | |
| | 12 | 模擬試験1 | 採点后フィードバック | |
| | 13 | 模擬試験2 | 採点后フィードバック | |
| | 14 | テスト | | |
| | 15 | テスト結果フィードバック | | |
| | 16 | テスト結果フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|--------------|-------------------------------|--------|
| 科目名 | サウンドデコーディング概論 I | | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 28 時間 | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | (後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。 模試を通しての自己分析 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | | |
| 使用教材 | サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集 | | | |
| 授業外学習の方法 | 実際にスタジオでの機材を目で見て、手で触って確認をする。 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 録音技術1 | マイク收音:方法と種類 | |
| | 2 | 録音技術2 | オーケストラの録音:クラシック音楽の録音の実際 | |
| | 3 | 録音技術3 | リズムトラックのレコーディング | |
| | 4 | 録音技術4 | マルチ録音とトラックダウン/ミキシングダウン | |
| | 5 | 次世代音響技術1 | デジタル音響処理基礎 | |
| | 6 | 次世代音響技術2 | デジタルによるマルチ再生 | |
| | 7 | 次世代音響技術3 | スピーカーの設置 | |
| | 8 | レジュメ提出 | 今までの内容の中で利害できなかった部分を抜擢しレジュメ作成 | |
| | 9 | 次世代音響技術4 | サラウンド技術の理解と実際 | |
| | 10 | 音楽理論と楽器1 | 基本的な楽器に対する理解 | |
| | 11 | 音楽理論と楽器2 | クラシック楽器 | |
| | 12 | 音楽理論と楽器3 | ポップス用の楽器 | |
| | 13 | 音楽著作権 | 著作権法の理解と原盤ビジネスの理解 | |
| | 14 | テスト | | |
| | 15 | テスト結果フィードバック | | |
| | 16 | テスト結果フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 録音実習 I | | 指導担当者名 | 安藤 圭太 |
|--|---|----------------|-------------------------|---------|
| 実務経験 | レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | ProTools | | | |
| 授業外学習の方法 | '空き時間を利用し、機材を使用した自主学习 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 面談 | | |
| | 2 | マイクの種類 | ダイナミックマイクの使い方を知る | |
| | 3 | マイクの種類 | コンデンサーマイクの使い方を知る | |
| | 4 | ドラム録音 | マイキングを知る | |
| | 5 | ドラム録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 6 | ギターベース録音 | マイキングを知る | |
| | 7 | ギターベース録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 8 | カホン録音 | マイキングを知る | |
| | 9 | カホン録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 10 | ピアノ録音 | マイキングを知る | |
| | 11 | ピアノ録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 12 | テスト対策 | 前期の復習 | |
| | 13 | 前期期末試験 | 録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価 | |
| | 14 | 試験内容をみんなとヒヤリング | | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|----------------|-------------------------|---------|
| 科目名 | 録音実習 I | | 指導担当者名 | 安藤 圭太 |
| 実務経験 | レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | ProTools | | | |
| 授業外学習の方法 | '空き時間を利用し、機材を使用した自主学习 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 後期 | 1 | Agt録音 | マイキングを知る | |
| | 2 | Agt録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 3 | Vo録音 | マイキングを知る | |
| | 4 | Vo録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 5 | ダイナミクス系エフェクター | コンプレッサーの使い方を理解する | |
| | 6 | ダイナミクス系エフェクター | EQの使い方を理解する | |
| | 7 | 空間系エフェクター | リバーブの使い方を理解する | |
| | 8 | 空間系エフェクター | ディレイの使い方を理解する | |
| | 9 | 楽器解説 | 各楽器の名称と効果を理解する | |
| | 10 | 楽器の取り扱い | ドラム取り扱い方を知る | |
| | 11 | 楽器の取り扱い | ギターベースの取り扱い方を知る | |
| | 12 | テスト対策 | 後期復習 | |
| | 13 | 後期期末試験 | 録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価 | |
| | 14 | 試験内容をみんなとヒヤリング | | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|---------------------|--------------------------------------|---------------|---|
| 科目名 | 音響実習 I | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 | |
| 実務経験 | コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | (前期) プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整 製作等作業試験受験準備 舞台機構調整 判断等試験受験準備 舞台機構調整 製作等作業試験受験 舞台機構調整 判断等試験受験 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | | | |
| 使用教材 | テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源 | | | | |
| 授業外学習の方法 | マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | プロの音に慣れる | モニタースピーカー、CD | | |
| | 2 | ミキシングコンソールの構造 | 分解用アナログ調整卓 | | |
| | 3 | ケーブル・コネクタ、スタンドの種類 | 該当ケーブル、コネクタ | | |
| | 4 | ミキサーの操作 | アナログ、デジタル調整卓 | | |
| | 5 | 製作等作業試験の実習(問題読み合わせ) | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | | |
| | 6 | 製作等作業試験の実習 | マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム | | |
| | 7 | 製作等作業試験の実習 | マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム | | |
| | 8 | 判断等試験、製作等作業試験の実習 | モニタースピーカー、CD | | |
| | 9 | 判断等試験、製作等作業試験の実習 | モニタースピーカー、CD | | |
| | 10 | ヒアリング試験 | モニタースピーカー、CD | | |
| | 11 | ヒヤリングのフィードバック | | | |
| | 12 | ヒヤリングのフィードバック | | | |
| | 13 | 本試験 | モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム | | |
| | 14 | 前期の振り返り | | | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 音響実習 I | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 | |
|--|---|------------------------|-----------------------|---------------|---|
| 実務経験 | コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | (後期) ナレーション、音楽、効果音ミキシングによる作品(CD)製作 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | テキスト: 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源 | | | | |
| 授業外学習の方法 | マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 編集ソフトの操作、構成台本製作 | PC | | |
| | 2 | 台本製作、素材加工 | PC | | |
| | 3 | ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機) | 台本、再生機材一式 | | |
| | 4 | ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機) | 台本、再生機材一式 | | |
| | 5 | ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機) | 台本、再生機材一式 | | |
| | 6 | 編集ソフトへの音源入れ込み | 台本、PC、再生機材一式 | | |
| | 7 | ナレーション、SE、音楽のミキシング(PC) | 台本、PC、再生機材一式 | | |
| | 8 | PCソフト編集(個人) | PC、再生機材一式 | | |
| | 9 | ソフト編集物のチェック1 | PC、再生機材一式 | | |
| | 10 | ソフト編集物のチェック2 | PCPCソフト編集、マスタリング、CD製作 | | |
| | 11 | PCソフト編集、マスタリング、CD製作1 | 提出の企画にあわせての音源制作 | | |
| | 12 | PCソフト編集、マスタリング、CD製作2 | 提出の企画にあわせての音源制作 | | |
| | 13 | 後期試験(CD制作課題提出) | CD再生機材一式 | | |
| | 14 | 提出CDヒアリングと評価 | 評価シート提出 | | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|-------------|------------------|---------------|---|
| 科目名 | 作曲実習 I | | 指導担当者名 | 安藤 圭太 | |
| 実務経験 | ミュージシャンと楽曲制作経歴5年 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的に見る力を付ける | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 楽器 音響機材 照明機材 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 前期 | 1 | 作曲 | 曲を作ることは | | |
| | 2 | 1'30" | ワンコーラスの曲を作る | | |
| | 3 | リズム隊 | リズム隊の重要性と有用性 | | |
| | 4 | コード | コードの進行の効果 | | |
| | 5 | ベース | ベースの重要性 | | |
| | 6 | メロディ | メロディの音楽理論 | | |
| | 7 | 機材 | 音響卓の構造 | | |
| | 8 | 機材 | 音の流れ | | |
| | 9 | 機材 | AUX | | |
| | 10 | 機材 | スピーカーの構造 | | |
| | 11 | 機材 | アンプ | | |
| | 12 | 機材 | インピーダンスの理解と実際の応用 | | |
| | 13 | テスト | | | |
| | 14 | 製作曲のヒヤリング | | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|-------------|---------------|-------------|---|
| 科目名 | 作曲実習 I | | 指導担当者名 | 安藤圭太 | |
| 実務経験 | ミュージシャンと楽曲制作経歴5年 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響ミュージック科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的に見る力を付ける | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 楽器 音響機材 照明機材 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用した学習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 後期 | 1 | 照明機材 | 照明機材の結線方法 | | |
| | 2 | 照明機材 | DMX | | |
| | 3 | 照明機材 | 配色 | | |
| | 4 | 照明機材 | 光の当て方 | | |
| | 5 | 照明機材 | 校内ライブでの配線を考える | | |
| | 6 | 録音 | 広い部屋での録音 | | |
| | 7 | 録音 | アンビエントマイク | | |
| | 8 | 録音 | マイクの指向性 | | |
| | 9 | 配信機材 | 配信に必要な機材 | | |
| | 10 | 配信機材 | ソフトウェア | | |
| | 11 | 配信機材 | カメラと三脚 | | |
| | 12 | 配信機材 | スイッチャー | | |
| | 13 | テスト | プリントによるテスト | | |
| | 14 | 提出曲のヒヤリング | | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|---|---------|---------------|
| 科目名 | 音楽分析概論 I | 指導担当者名 | 今泉 尊州 |
| 実務経験 | ミュージシャンと楽曲制作経歴5年 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | 音楽業界は様々な職業があつて成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけ、それを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | |
| 使用教材 | 筆記用具 PC | | |
| 授業外学習の方法 | プリントでの学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 前期 | 1 | 楽典 | 楽譜 |
| | 2 | 楽典 | オタマジャクシ |
| | 3 | 楽典 | ト音記号 |
| | 4 | 楽典 | ヘ音記号 |
| | 5 | 楽典 | 音階 |
| | 6 | 楽典 | 音階 |
| | 7 | 楽典 | コード |
| | 8 | 楽典 | コード進行 |
| | 9 | 楽典 | コード進行 |
| | 10 | 楽典 | 復習 |
| | 11 | 楽典 | 復習 |
| | 12 | 楽典 | 復習 |
| | 13 | 楽典 | 復習 |
| | 14 | テスト | プリントによるテスト |
| | 15 | 答え合わせ | |
| | 16 | フィードバック | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|---|---------|---------------|
| 科目名 | 音楽分析概論 I | 指導担当者名 | 今泉 尊州 |
| 実務経験 | ミュージシャンと楽曲制作経歴5年 | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習:○ | 実習: 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | 音楽業界は様々な職業があつて成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけ、それを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | |
| 使用教材 | 筆記用具 PC | | |
| 授業外学習の方法 | プリントでの学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 後期 | 1 | 楽典 | 振り返り |
| | 2 | 楽典 | マイナー |
| | 3 | 楽典 | メジャー |
| | 4 | 楽典 | コードの構成 |
| | 5 | 楽典 | テンション |
| | 6 | 楽典 | テンション |
| | 7 | 楽典 | 演奏上の注意 |
| | 8 | 楽典 | バッキングコード |
| | 9 | 楽典 | 復習 |
| | 10 | 楽典 | 復習 |
| | 11 | 楽典 | 復習 |
| | 12 | 楽典 | 復習 |
| | 13 | 楽典 | 復習 |
| | 14 | テスト | プリントによるテスト |
| | 15 | 答え合わせ | |
| | 16 | フィードバック | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|----------------|--------------------------|----------------|
| 科目名 | 機材メンテナンス I | | 指導担当者名 | 脇屋 淳(リヴァーズウェイ) |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 学校内音響備品等 | | | |
| 授業外学習の方法 | 音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション | |
| | 2 | 音響機材の構造 | 音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について | |
| | 3 | 音響機材のメンテナンス | 端子等の役割・メンテナンスの方法 | |
| | 4 | マイク1 | マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク) | |
| | 5 | マイク2 | マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク) | |
| | 6 | ケーブル | 各種ケーブルの違いやメンテナンス | |
| | 7 | 楽器の構造1 | 楽器の構造 | |
| | 8 | 楽器の構造2 | ピックアップ | |
| | 9 | 楽器の構造3 | アコースティック | |
| | 10 | 楽器アンプ1 | ギターアンプの取り扱い方法 | |
| | 11 | 楽器アンプ2 | ベースアンプの取り扱い方法 | |
| | 12 | 舞台機構調整3級試験の復習 | 舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習 | |
| | 13 | 学校内楽器機材のメンテナンス | 校内の楽器、アンプの修理 | |
| | 14 | 期末試験 | | |
| | 15 | 期末試験振り返り | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|---------------|-----------------------------|----------------|---|
| 科目名 | 機材メンテナンス I | | 指導担当者名 | 脇屋 淳(リヴァーズウェイ) | |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 学校内音響備品等 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 後期 | 1 | マイクケーブルの作成1 | マイクケーブルを実際に作成、修理作業を行う | | |
| | 2 | マイクケーブルの作成2 | マイクケーブル、その他フォン端子等のケーブル作成/修理 | | |
| | 3 | デジタル音響機材 | デジタルミキサ概論 | | |
| | 4 | デジタル音響機材 | デジタルミキサーとアナログミキサーの違いについて | | |
| | 5 | デジタル機器とアナログ機器 | デジタルとアナログの信号の流れについて | | |
| | 6 | デジタルの規格 | 企画によるデータ伝送方式とケーブルの種類 | | |
| | 7 | DANTEの基礎1 | 今主流のデジタル企画、DANTEについて学ぼう | | |
| | 8 | DANTEの基礎2 | DANTEを利用しシステムを組む。 | | |
| | 9 | ドラム1 | ドラムセットのメンテナンス | | |
| | 10 | ドラム2 | ドラムセットのメンテナンス | | |
| | 11 | 楽器ごとのチューニング | チューニングの方法、実際に鳴っている周波数の把握 | | |
| | 12 | 照明機器1 | 照明機器の構造について | | |
| | 13 | 照明機器2 | ムービングと一般照明とLEDの役割 | | |
| | 14 | 期末試験 | | | |
| | 15 | 期末試験振り返り | | | |
| | 16 | 試験のフィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|------------------|----------------------------|----------|
| 科目名 | 実演実習 I | | 指導担当者名 | リヴァーズウェイ |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 楽器 | | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 前期 | 1 | セッションのルールと知識 | 授業のオリエンテーション | |
| | 2 | 12小節のブルース進行 | キーを変えコードと和音の感覚も鍛える。 | |
| | 3 | 8ビート、16ビート。 | リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。 | |
| | 4 | 裏のリズム。ディスコビート。 | IDM系リズムと曲の学習。 | |
| | 5 | 12/8ビート。シャッフル。 | シャッフルの感覚と曲の学習 | |
| | 6 | ビートシフト。感覚トレーニング。 | グループを出すための感覚の習得。 | |
| | 7 | バウンス。ファンク。 | スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。 | |
| | 8 | ハーフタイムシャッフル。 | ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。 | |
| | 9 | ボサノバ。レゲエ。 | ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。 | |
| | 10 | サンバ。 | 速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。 | |
| | 11 | ジャズ2ビート、4ビート。 | ジャズスタンダードを学習する。 | |
| | 12 | 奇数ビート。 | 奇数曲と感覚を学習する。 | |
| | 13 | テスト | 演奏によるテスト | |
| | 14 | みんなと演奏の評価 | できている箇所とできてない箇所の原因と反省 | |
| | 15 | フィードバック | | |
| | 16 | フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|-------------|---------------|----------|
| 科目名 | 実演実習 I | | 指導担当者名 | リヴァーズウェイ |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験: 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 楽器 | | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 後期 | 1 | 難易度の高い曲の完成。 | 課題曲の分析 | |
| | 2 | 難易度の高い曲の完成。 | リズムを覚える | |
| | 3 | 難易度の高い曲の完成。 | コード進行を覚える | |
| | 4 | 難易度の高い曲の完成。 | メロディを覚える | |
| | 5 | 難易度の高い曲の完成。 | アドリブをみんなで回す | |
| | 6 | 難易度の高い曲の完成。 | 合奏 | |
| | 7 | 難易度の高い曲の完成。 | 進行を覚える | |
| | 8 | 難易度の高い曲の完成。 | リズムを覚える | |
| | 9 | 難易度の高い曲の完成。 | コード進行を覚える | |
| | 10 | 難易度の高い曲の完成。 | メロディを覚える | |
| | 11 | 難易度の高い曲の完成。 | アドリブをみんなで回す | |
| | 12 | 難易度の高い曲の完成。 | 合奏 | |
| | 13 | 難易度の高い曲の完成。 | 合奏 | |
| | 14 | テスト | ライブ形式 | |
| | 15 | 演奏の評価 | みんなに評価してもらう | |
| | 16 | フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|------------------------|----------------------------------|---------|
| 科目名 | 音響・舞台・照明総合 I | | 指導担当者名 | バク ス فن |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また、実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかを見る。また、将来の目標設定を個々で設定できるようにする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 授業中の積極性や実習中の動きで評価上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する | | | |
| 使用教材 | PC 音響機材 照明機材 ペン ノート タブレットPC 映像配信機材一式 | | | |
| 授業外学習 の方法 | プリントによる学習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | この授業の趣旨・自己紹介 | |
| | 2 | 就職目標(なりたいセクション)及び音楽の理解 | マインドマップの作成・好きな音楽と嫌いな音楽の理由 | |
| | 3 | 業界理解 | 現状の業界に求められる人材とはなにか | |
| | 4 | クリエイティブ志向を育てるメモの取り方 | メモの取り方の資料を読み実践 ノート・ペン タブレットPC・PC | |
| | 5 | 制作の裏側・逆算力 | 動画・PC ノート・ペン→まとめたものを発表 | |
| | 6 | 校内ライブの足りない部分・次回テーマ決め | 付箋・ペン・紙 | |
| | 7 | セクション・TODO出し | 紙・ペン・ノート付箋・模造紙・PC | |
| | 8 | 校内ライブ準備① | 制作バック・ノート・PC | |
| | 9 | 校内ライブ準備②スタッフミーティング | 全体の確認 | |
| | 10 | 校内ライブの反省会 | 反省点・改善点・良かった点 次回テーマ決め | |
| | 11 | 実際のプロとの違い | どのような段取りをするか | |
| | 12 | 企画書の立て方 | ペライチ企画 タイトル・テーマ・意図・演出内容 | |
| | 13 | 前期テスト | 企画とプレゼン | |
| | 14 | プレゼンの結果振り返り | 評価シートの共有 | |
| | 15 | 結果フィードバック | | |
| | 16 | 結果フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|-------------------|--|--------|
| 科目名 | 音響・舞台・照明総合 I | | 指導担当者名 | バク スブン |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また、実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかを見る。また、将来の目標設定を個々で設定できるようにする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 授業中の積極性や実習中の動きで評価上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する | | | |
| 使用教材 | PC 音響機材 照明機材 ペン ノート タブレットPC 映像配信機材一式 | | | |
| 授業外学習 の方法 | プリントによる学習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 後期個人目標設定 | 修了・卒業公演までに自分が何をやるべきか目標設定 PC・ノート・ペン | |
| | 2 | イベント業界に必要な映像知識 | 映像の最低限知らなくてはいけない知識 | |
| | 3 | イベント企画を立てる | 郡山に貢献できる音楽とは何か追及する PC・ノート・ペ | |
| | 4 | プレゼンの仕方 | プレゼンとは何のためにするかを学ぶ PC・ノート・ペン | |
| | 5 | 課題プレゼン | プレゼン PC・ノート・ペン・プロジェクタ | |
| | 6 | 企画内容の実現化 | 企画内容が実際にできるものなのかを検討・レポート | |
| | 7 | 予算の立て方 | レポートをもとに予算とはどのように考えられているのかを学ぶPC・ノート・ペン | |
| | 8 | 校内ライブ・イベントライブの準備① | プレゼン PC・ノート・ペン・プロジェクター | |
| | 9 | 校内ライブ・イベントライブの準備② | プレゼン PC・ノート・ペン・プロジェクタ | |
| | 10 | イベント考察 | ペン・付箋・ノート | |
| | 11 | 業界知識 | イベント業に必要な知識の補足 | |
| | 12 | チーム形成 | コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り | |
| | 13 | 後期テスト | 修了・卒業公演企画プレゼン | |
| | 14 | プレゼンの結果振り返り | 評価シートの共有 | |
| | 15 | 結果フィードバック | | |
| | 16 | 結果フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | コミュニケーション演習 | | 指導担当者名 | 佐藤 美希子 |
|---|--|--------------------------|-------------------------------|--------|
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 全学科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習:○ | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 28 時間 | 週時間数 | 1週/28時間 | |
| 学習到達目標 | サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 筆記試験、出席率、模擬試験結果、検定結果による評価を行う 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する | | | |
| 使用教材 | コミュニケーション検定初級 テキスト | | | |
| 授業外学習 の方法 | テキストを使用し、過去問題を回答する | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明 | |
| | 2 | パート1 コミュニケーションセオリー(理論) | 1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く | |
| | 3 | パート1 コミュニケーションセオリー(理論) | 2-2傾聴・質問する | |
| | 4 | パート1 コミュニケーションセオリー(理論) | 3-1目的を意識する | |
| | 5 | パート1 コミュニケーションセオリー(理論) | 3-2話を組み立てる | |
| | 6 | パート1 コミュニケーションセオリー(理論) | 3-3言葉を選び抜く | |
| | 7 | パート1 コミュニケーションセオリー(理論) | 3-4表現伝達する | |
| | 8 | パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) | 1-1来客対応、1-2電話対応 | |
| | 9 | パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) | 1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性 | |
| | 10 | パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) | 1-5チームコミュニケーション | |
| | 11 | パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) | 2-1接客営業、2-2クレーム対応 | |
| | 12 | パート2 コミュニケーションプラクティス(実践) | 2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接 | |
| | 13 | 検定対策 | 模擬試験 | |
| | 14 | 期末試験 | 検定本番 | |
| | 15 | | | |
| | 16 | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|----------------|--|----------------|--|--|
| 科目名 | 修了制作 I | 指導担当者名 | バク スフン | |
| 実務経験 | | | 実務経験: | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: | |
| 時間数 | 180 時間 | 週時間数 | 6週/180時間 | |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事 | | | |
| 授業外学習の方法 | 制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 作品制作開始 | 事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる | |
| | 2 | 作品制作2 | 個別添削を行いながら制作を進めていく | |
| | 3 | 作品制作3 | 中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても可視化していく | |
| | 4 | 学科内プレゼンテーション | 学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など | |
| | 5 | 発表を受けての修正と展示準備 | 各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作 | |
| | 6 | 卒業・修了制作展 | 展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|--|---------------|------------------------|
| 科目名 | 進路研究Ⅱ | 指導担当者名 | 就職担当職員 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 全学科2、3年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 28時間 | 週時間数 | 1時間 |
| 学習到達目標 | 学生の進路にあわせた進路指導、就職活動指導(プロ希望、業界志望、その他企業志望) ・進路決定活動の状況に応じて問題解決が出来るようになる。 ・それぞれの希望進路に向けて準備から受験までを行う事が出来るようになる。 ・進路決定後はその職業に必要な知識と技術を身に付け、社会人としての準備を自ら出来るようになる。 | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | パソコン 作品集 SUCCESS | | |
| 授業外学習の方法 | 教科書の復習。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業内容説明 |
| | 2 | 色々な働き方 | 働き方の種類、社会保障制度などを理解 |
| | 3 | プロ・フリーランスの定義 | 会社に属さない働き方を理解 |
| | 4 | ポートフォリオの役割 | 実績集(ポートフォリオ)制作の目的 |
| | 5 | 個別指導① | 個人の状況に合わせて個別指導 |
| | 6 | 受験書類・自己PR | 自己分析と自己PR |
| | 7 | 個別指導② | 個人の状況に合わせて個別指導 |
| | 8 | 進路選択の順番 | 会社説明会やインターネットを使用した求人検索 |
| | 9 | プロ・フリーランスの働き方 | 収入を得る方法、準備 |
| | 10 | ポートフォリオ添削 | 最新ポートフォリオ |
| | 11 | 個別指導③ | 個人の状況に合わせて個別指導 |
| | 12 | 受験書類・志望動機 | 企業研究と志望動機 |
| | 13 | 個別指導④ | 個人の状況に合わせて個別指導 |
| | 14 | 期末試験 | 進路活動のレポート |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| 作品制作 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 進路研究Ⅱ | | 指導担当者名 | | 就職担当職員 | |
|--|--|-----------------|-----------------------|---------|--------|--|
| 実務経験 | | | | | 実務経験: | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 全学科2、3年 | | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | | |
| 時間数 | 28時間 | | 週時間数 | 1時間 | | |
| 学習到達目標 | 学生の進路にあわせた進路指導、就職活動指導(プロ希望、業界志望、その他企業志望) ・進路決定活動の状況に応じて問題解決が出来るようになる。 ・それぞれの希望進路に向けて準備から受験までを行う事が出来るようになる。 ・進路決定後はその職業に必要な知識と技術を身に付け、社会人としての準備を自ら出来るようになる。 | | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | | | |
| 使用教材 | パソコン 作品集 SUCCESS | | | | | |
| 授業外学習の方法 | 教科書の復習。ニュースを見る。 | | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | | |
| 授業計画 後期 | 1 | オリエンテーション | 授業内容説明 | | | |
| | 2 | 進路サポート案内 | 就職活動支援、利用方法の理解 | | | |
| | 3 | 個別指導⑤ | 個人の状況に合わせて個別指導 | | | |
| | 4 | プロ・フリーランスになってから | 各種手続きなどの紹介 | | | |
| | 5 | 個別指導⑥ | 個人の状況に合わせて個別指導 | | | |
| | 6 | ポートフォリオ添削 | 受かるポートフォリオ、落ちるポートフォリオ | | | |
| | 7 | 個別指導⑦ | 個人の状況に合わせて個別指導 | | | |
| | 8 | 受験書類・メール | お礼状やビジネスメール | | | |
| | 9 | 個別指導⑧ | 個人の状況に合わせて個別指導 | | | |
| | 10 | 個別指導⑨ | 個人の状況に合わせて個別指導 | | | |
| | 11 | 個別指導⑩ | 個人の状況に合わせて個別指導 | | | |
| | 12 | 社会人準備① | 社会人になる前の準備物や手続き | | | |
| | 13 | 社会人準備② | 社会人になる前の心構え、ビジネスマナー□ | | | |
| | 14 | 期末試験 | 進路活動のレポート | | | |
| | 15 | | | | | |
| | 16 | | | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|-----------|---|
| 科目名 | クロスオーバーゼミⅡ | 指導担当者名 | 志村、佐藤、渡邊 |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 全学科2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 56 時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習することで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | パソコン。筆記用具 | | |
| 授業外学習の方法 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 |
| | 2 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 3 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 4 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 5 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 6 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 |
| | 7 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 |
| | 8 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 9 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 10 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 11 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 |
| | 12 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| | 16 | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|-----------|---|----------|--|
| 科目名 | クロスオーバーゼミⅡ | | 指導担当者名 | 志村、佐藤、渡邊 | |
| 実務経験 | | | | 実務経験: | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 全学科2年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | パソコン。筆記用具 | | | | |
| 授業外学習の方法 | | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 17 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 | | |
| | 18 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 19 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 20 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 21 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 22 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 | | |
| | 23 | オリエンテーション | 授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。 | | |
| | 24 | 選択基礎1 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 25 | 選択基礎2 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 26 | 選択基礎3 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 27 | 選択基礎4 | 選択授業の基礎を学ぶ。 | | |
| | 28 | 選択基礎5 | 選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。 | | |
| | 29 | | | | |
| | 30 | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 履修上の留意点 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期ともに総授業時数の80%以上の出席をしていること ・授業ないの成果物の評価・最終授業でのレポートの提出 ○評価はA～Dとし、A(優:100～80点)B(良:79～70点)C(可:69～60点)D(不可:59点～) ○対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|---------------------|----------------------------------|--------|
| 科目名 | サウンドデコーディング概論Ⅱ | | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 56 時間 | 週時間数 | 2時間 | |
| 学習到達目標 | (前期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | |
| 使用教材 | サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集 | | | |
| 授業外学習の方法 | 実際にスタジオでの機材を目で見て、手で触って確認をする。 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| | 1 | オリエンテーション | レコーディングを中心とした技術の理解と実際。 | |
| | 2 | 音の性質 | 音の3要素。dBと音圧レベルの理解と計算方法。両耳効果とステレオ | |
| | 3 | 音響物理基礎1 | 音と音波 | |
| | 4 | 音響物理基礎2 | 音に関する物理量 | |
| | 5 | 音響物理基礎3 | 音の尺度 | |
| | 6 | 電気音響基礎1 | 電気基礎 | |
| | 7 | 電気音響基礎2 | 基本回路 | |
| | 8 | 電気音響基礎3 | オーディオ回路 | |
| | 9 | 音響機器1 | マイクの種類と作動原理 | |
| | 10 | 音響機器2 | コンソールの種類と機能 | |
| | 11 | 音響機器3 | 記憶媒体の歴史 | |
| | 12 | 模擬試験1 | | |
| | 13 | 模擬試験2 | | |
| | 14 | サウンドレコーディング技術認定試験受験 | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|-------------|-------------------------------|
| 科目名 | サウンドデコーディング概論Ⅱ | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 時間数 | 56 時間 | 週時間数 | 2時間 |
| 学習到達目標 | (後期) サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析 | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | |
| 使用教材 | サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集 | | |
| 授業外学習の方法 | 実際にもスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 録音技術1 | マイク收音:方法と種類 |
| | 2 | 録音技術2 | オーケストラの録音:クラシック音楽の録音の実際 |
| | 3 | 録音技術3 | リズムトラックのレコーディング |
| | 4 | 録音技術4 | マルチ録音とトラックダウン/ミキシングダウン |
| | 5 | 次世代音響技術1 | デジタル音響処理基礎 |
| | 6 | 次世代音響技術2 | デジタルによるマルチ再生 |
| | 7 | 次世代音響技術3 | スピーカーの設置 |
| | 8 | レジュメ提出 | 今までの内容の中で利害できなかった部分を抜擢しレジュメ作成 |
| | 9 | 次世代音響技術4 | サラウンド技術の理解と実際 |
| | 10 | 音楽理論と楽器1 | 基本的な楽器に対する理解 |
| | 11 | 音楽理論と楽器2 | クラシック楽器 |
| | 12 | 音楽理論と楽器3 | ポップス用の楽器 |
| | 13 | 音楽著作権 | 著作権法の理解と原盤ビジネスの理解 |
| | 14 | テスト | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|---------------|-----------------------------|---------------|---|
| 科目名 | 音響学概論Ⅱ | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 | |
| 実務経験 | コンサート業務・音響現場に50年以上従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: | |
| 時間数 | 28 時間 | | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | 音響ミキシング技術の理論的根拠としての聴覚心理を学ぶ。 劇場、ホールの基礎知識と舞台音響について学ぶ。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | | |
| 使用教材 | テキスト: 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、舞台技術の共通基礎 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 音に注意を払った音楽、映画、TVライブ収録番組鑑賞 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 前期 | 1 | 舞台技術者の音の聴き方 | レジュメ | | |
| | 2 | 音の様々な現象 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | | |
| | 3 | ミキシング(エフェクター) | " | | |
| | 4 | ミキシング(エフェクター) | " | | |
| | 5 | マイクの特性 | " | | |
| | 6 | ワンポイント録音方式 | " | | |
| | 7 | 舞台用語 | " | | |
| | 8 | 舞台構造、舞台図面 | " | | |
| | 9 | 劇場の音響 | " | | |
| | 10 | 音響プランの作成Ⅰ | セッティング図に沿った作成のし方 | | |
| | 11 | 音響プランの作成Ⅱ | セッティング図に沿った作成のし方 | | |
| | 12 | 作成プラン検証Ⅰ | プラン通りの仕込み実施 | | |
| | 13 | 作成プラン検証Ⅱ | 間違った箇所や改善の余地の圧個所の修正 | | |
| | 14 | テスト | | | |
| | 15 | 試験結果のフィードバック | | | |
| | 16 | 試験結果のフィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|-----------------|-----------------------------|------------|
| 科目名 | 音響学概論Ⅱ | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 |
| 実務経験 | コンサート業務・音響現場に50年以上従事 | | | 実務経験： 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義：○ | 演習： | 実習： | 実技： |
| 時間数 | 28 時間 | 週時間数 | 1時間 | |
| 学習到達目標 | 音響ミキシング技術の理論的根拠としての聴覚心理を学ぶ。 劇場、ホールの基礎知識と舞台音響について学ぶ。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | |
| 使用教材 | テキスト：舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、舞台技術の共通基礎 | | | |
| 授業外学習の方法 | 音に注意を払った音楽、映画、TVライブ収録番組鑑賞 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 後期 | 1 | 楽器の基礎知識 | 舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト) | |
| | 2 | EQの知識 | " | |
| | 3 | エフェクターの知識 | " | |
| | 4 | 音響測定と聴感 | " | |
| | 5 | 催し物の種類と音響 | レジュメ | |
| | 6 | 空間の知識 | " | |
| | 7 | ホール舞台図面 | 実際のホールの図面をダウンロード | |
| | 8 | 音響プラン制作基礎 | 舞台技術の共通基礎 | |
| | 9 | 音響プラン制作 | 検証作業 | |
| | 10 | 後期試験 | | |
| | 11 | 実際の催し物の音響プラン制作Ⅰ | セッティング図に沿った内容でできているのかを検証 | |
| | 12 | 実際の催し物の音響プラン制作Ⅱ | セッティング図に沿った内容でできているのかを検証 | |
| | 13 | ライブの仕込み | プラン通りの仕込み | |
| | 14 | ライブ実施 | | |
| | 15 | ライブの反省会 | 反省内容をアーカイブとして制作し、保管 | |
| | 16 | 結果のフィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|--------------|--------------------------|---------|
| 科目名 | ストリーミング実習 I | | 指導担当者名 | バク ス فن |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 実習を通して動画の撮影・編集を学び、さらに配信の現場を自分たちで作れるようになる。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | パソコン カメラ ATEM | | | |
| 授業外学習の方法 | 様々な映像作品を見る | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 前期 | 1 | 動画とは | 動画の画角等 | |
| | 2 | 動画を作ってみよう | premiere proを使用した動画制作 | |
| | 3 | 動画を作ってみる2 | premiere proを使用動画の書き出し方法 | |
| | 4 | 配信 | Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。 | |
| | 5 | 配信 | Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。 | |
| | 6 | 配信 | youtubeの設定と配信 | |
| | 7 | 配信 | 配信に必要なブロック図と配線の書き方 | |
| | 8 | 配信イベント | 配信イベント行ってみる | |
| | 9 | 配信用のCMを作ってみる | 動画を配信に合うように作る | |
| | 10 | 配信用のCMを作ってみる | 動画を配信に合うように作る | |
| | 11 | 配信用のCMを作ってみる | 動画を配信に合うように作る | |
| | 12 | 配信用のCMを作ってみる | 動画を配信に合うように作る | |
| | 13 | 動画の配信 | 製作した動画の配信 | |
| | 14 | 後期期末 | 配信実技によるテスト | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|-----------------|-------------------------|--------|
| 科目名 | ストーリーミング実習 I | | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 実習を通して動画の撮影・編集を学び、さらに配信の現場を自分たちで作れるようになる。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | パソコン カメラ ATEM | | | |
| 授業外学習の方法 | 様々な映像作品を見る | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 前期振り返り | | |
| | 2 | 配信のためのプランニング | 配信時間を考える | |
| | 3 | タイムコード | 音声と映像を合わせる | |
| | 4 | 配信企画 | 配信の企画を立てる | |
| | 5 | 配信必要な素材 | 配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる | |
| | 6 | 良い音で配信するためには？ | 配信での良い音する方法 | |
| | 7 | 音楽以外の配信プラン | 朗読劇での配信 | |
| | 8 | 音楽以外の配信プラン | e-Sportsでの配信 | |
| | 9 | 音楽以外の配信プラン | 演劇での配信 | |
| | 10 | 校内ライブで配信するたのプラン | 配信プランを立ててみる | |
| | 11 | 校内ライブで配信するたのプラン | 実際に配信をしてみる | |
| | 12 | 校内ライブで配信するたのプラン | 弾き語りの配信をしてみる | |
| | 13 | ライブストーリーミング実施 | プランに沿っての機材設置と配信 | |
| | 14 | 期末テスト | 配信までの流れを再現 | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|-------------|-------------------------|----------|
| 科目名 | 録音実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 安藤 圭太 |
| 実務経験 | レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴 | | | 実務経験: あり |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | ProTools | | | |
| 授業外学習の方法 | '空き時間を利用し、機材を使用した自主学习 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 面談 | | |
| | 2 | マイクの種類 | ダイナミックマイクの使い方を知る | |
| | 3 | マイクの種類 | コンデンサーマイクの使い方を知る | |
| | 4 | ドラム録音 | マイキングを知る | |
| | 5 | ドラム録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 6 | ギターベース録音 | マイキングを知る | |
| | 7 | ギターベース録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 8 | カホン録音 | マイキングを知る | |
| | 9 | カホン録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 10 | ピアノ録音 | マイキングを知る | |
| | 11 | ピアノ録音 | 音の加工仕方を身に付ける | |
| | 12 | テスト対策1 | 前期の復習 | |
| | 13 | テスト対策2 | 全員でヒヤリングによる評価共有 | |
| | 14 | 前期期末試験 | 録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価 | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|---------------|-------------------------|---------------|----|
| 科目名 | 録音実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 安藤 圭太 | |
| 実務経験 | レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴 | | | 実務経験: | あり |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | ProTools | | | | |
| 授業外学習の方法 | 空き時間を利用し、機材を使用した自主学习 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 後期 | 1 | Agt録音 | マイキングを知る | | |
| | 2 | Agt録音 | 音の加工仕方を身に付ける | | |
| | 3 | Vo録音 | マイキングを知る | | |
| | 4 | Vo録音 | 音の加工仕方を身に付ける | | |
| | 5 | ダイナミクス系エフェクター | コンプレッサーの使い方を理解する | | |
| | 6 | ダイナミクス系エフェクター | EQの使い方を理解する | | |
| | 7 | 空間系エフェクター | リバーブの使い方を理解する | | |
| | 8 | 空間系エフェクター | ディレイの使い方を理解する | | |
| | 9 | 楽器解説 | 各楽器の名称と効果を理解する | | |
| | 10 | 楽器の取り扱い | ドラム取り扱い方を知る | | |
| | 11 | 楽器の取り扱い | ギターベースの取り扱い方を知る | | |
| | 12 | テスト対策1 | 後期復習 | | |
| | 13 | テスト対策2 | 全員でヒヤリングによる評価共有 | | |
| | 14 | 前期期末試験 | 録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価 | | |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | | |
| | 16 | 期末試験フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 作曲実習Ⅱ | 指導担当者名 | |
|--------------|---|-------------|------------------|
| 実務経験 | ミュージシャンと楽曲製作経歴5年 | | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: 実習:○ | |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 3時 | |
| 学習到達目標 | 作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的に見る力をつける | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施している。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)の評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | 楽器 音響機材 照明機材 | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業計画 前期 | 1 | 作曲 | 曲を作ることは |
| | 2 | 1'30" | ワンコーラスの曲を作る |
| | 3 | リズム隊 | リズム隊の重要性と有用性 |
| | 4 | コード | コードの進行の効果 |
| | 5 | ベース | ベースの重要性 |
| | 6 | メロディ | メロディの音楽理論 |
| | 7 | 機材 | 音響卓の構造 |
| | 8 | 機材 | 音の流れ |
| | 9 | 機材 | AUX |
| | 10 | 機材 | スピーカーの構造 |
| | 11 | 機材 | アンプ |
| | 12 | 機材 | インピーダンスの理解と実際の応用 |
| | 13 | テスト | |

| | | |
|----|-------------|--|
| 14 | 製作曲のヒヤリング | |
| 15 | 試験結果フィードバック | |
| 16 | 試験結果フィードバック | |

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|---|--------|---------------|
| 科目名 | 作曲実習Ⅱ | | 指導担当者名 |
| 実務経験 | ミュージシャンと楽曲製作経験5年 | | |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時 |
| 学習到達目標 | 作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的に見る力をつける | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施している。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)の評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | 楽器 音響機材 照明機材 | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授 業 | 1 | 照明機材 | 照明機材の結線方法 |
| | 2 | 照明機材 | DMX |
| | 3 | 照明機材 | 配色 |
| | 4 | 照明機材 | 光の当て方 |
| | 5 | 照明機材 | 校内ライブでの配線を考える |
| | 6 | 録音 | 広い部屋での録音 |
| | 7 | 録音 | アンビエントマイク |

未
計
画

後
期

| | | |
|----|-------------|------------|
| 8 | 録音 | マイクの指向性 |
| 9 | 配信機材 | 配信に必要な機材 |
| 10 | 配信機材 | ソフトウェア |
| 11 | 配信機材 | カメラと三脚 |
| 12 | 配信機材 | スイッチャー |
| 13 | テスト | プリントによるテスト |
| 14 | 提出曲のヒヤリング | |
| 15 | 試験結果フィードバック | |
| 16 | 試験結果フィードバック | |

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

| | |
|-------|---|
| 安藤 圭太 | |
| 実務経験: | 有 |

・ミュージック科 2年

| |
|-----|
| 実技: |
|-----|

時間

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

是出状況などを点数配分し、
の出席率80%以上を要件として
、の4段階評価とする。A、B、C

| |
|--|
| |
| |

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|-----------------------|--------------------|---------------|---|
| 科目名 | 音響実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 | |
| 実務経験 | 音響会社及び公共ホール等で音響技術者として50年従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 | | | | |
| 使用教材 | ProTools、モニタースピーカーシステム一式、PAシステム一式 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 多チャンネルミキシングの音楽、TV番組、映画の鑑賞 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 音響技術者の音の聴き方(PAと録音の違い) | PAスピーカー、モニタースピーカー | | |
| | 2 | 機材セッティング、エフェクター操作 | 調整卓、周辺機器 | | |
| | 3 | アナログミキサーの操作 | 調整卓(アナログ) | | |
| | 4 | デジタルミキサーの操作 | 調整卓(デジタル) | | |
| | 5 | EQの操作 | 調整卓(デジタル)、ProTools | | |
| | 6 | エフェクターの操作 | " | | |
| | 7 | PAシステムの調整 | PAシステム一式 | | |
| | 8 | PAシステム総合操作 | " | | |
| | 9 | PAシステム総合操作 | " | | |
| | 10 | 前期期末試験 | | | |
| | 11 | マルチトラックミキシング素材入れ込み | ProTools | | |
| | 12 | マルチトラックミキシング(音量) | " | | |
| | 13 | マルチトラックのヒヤリング | みんなで聞いて評価を共有 | | |
| | 14 | テスト | | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|------------------------|-------------|---------------|----|
| 科目名 | 音響実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 薄 崇雄 | |
| 実務経験 | 音響会社及び公共ホール等で音響技術者として50年従事 | | | 実務経験: | あり |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | ProTools、モニタースピーカーシステム一式、PAシステム一式 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 多チャンネルミキシングの音楽、TV番組、映画の鑑賞 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | マルチトラック荒ミキシング、試聴 | ProTools | | |
| | 2 | マルチトラックミキシング (HPF) | " | | |
| | 3 | マルチトラックミキシング (音量) | " | | |
| | 4 | マルチトラックミキシング (EQ) | " | | |
| | 5 | マルチトラックミキシング (エフェクター) | " | | |
| | 6 | マルチトラックミキシング (ミックスダウン) | " | | |
| | 7 | マルチトラックミキシング (ミックスダウン) | " | | |
| | 8 | マルチトラックミキシング (修正) | " | | |
| | 9 | マルチトラックミキシング (マスタリング) | " | | |
| | 10 | 後期作品提出 (CD提出) | | | |
| | 11 | 作品ヒヤリング | みんなで聞いて評価共有 | | |
| | 12 | ミキシング成果発表 | CD再生装置一式 | | |
| | 13 | 音響 (PAシステム) 調整総合操作 | CD再生装置一式 | | |
| | 14 | テスト | PAシステム一式 | | |
| | 15 | 試験結果フィードバック | | | |
| | 16 | 試験結果フィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|----------------|--------------------------|----------------|---|
| 科目名 | 機材メンテナンスⅡ | | 指導担当者名 | 脇屋 淳(リヴァーズウェイ) | |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り、分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 学校内音響備品等 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | オリエンテーション | | |
| | 2 | 音響機材の構造 | 音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について | | |
| | 3 | 音響機材のメンテナンス | 端子等の役割・メンテナンスの方法 | | |
| | 4 | マイク1 | マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク) | | |
| | 5 | マイク2 | マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク) | | |
| | 6 | ケーブル | 各種ケーブルの違いやメンテナンス | | |
| | 7 | 楽器の構造1 | 楽器の構造 | | |
| | 8 | 楽器の構造2 | ピックアップ | | |
| | 9 | 楽器の構造3 | アコースティック | | |
| | 10 | 楽器アンプ1 | ギターアンプの取り扱い方法 | | |
| | 11 | 楽器アンプ2 | ベースアンプの取り扱い方法 | | |
| | 12 | 舞台機構調整3級試験の復習 | 舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習 | | |
| | 13 | 学校内楽器機材のメンテナンス | 校内の楽器、アンプの修理 | | |
| | 14 | 舞台機構調整3級試験の復習 | 舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習 | | |
| | 15 | 期末試験 | | | |
| | 16 | 期末試験振り返り | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|---|---------------|-----------------------------|----------------|---|
| 科目名 | 機材メンテナンスⅡ | | 指導担当者名 | 脇屋 淳(リヴァーズウェイ) | |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験: | 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ | 実技: | |
| 時間数 | 84 時間 | | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り、分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。 | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 学校内音響備品等 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業計画 後期 | 1 | マイクケーブルの作成1 | マイクケーブルを実際に作成、修理作業を行う | | |
| | 2 | マイクケーブルの作成2 | マイクケーブル、その他フォン端子等のケーブル作成/修理 | | |
| | 3 | デジタル音響機材 | デジタルミキサ概論 | | |
| | 4 | デジタル音響機材 | デジタルミキサーとアナログミキサーの違いについて | | |
| | 5 | デジタル機器とアナログ機器 | デジタルとアナログの信号の流れについて | | |
| | 6 | デジタルの規格 | 企画によるデータ伝送方式とケーブルの種類 | | |
| | 7 | DANTEの基礎1 | 今主流のデジタル企画、DANTEについて学ぼう | | |
| | 8 | DANTEの基礎2 | DANTEを利用しシステムを組む。 | | |
| | 9 | ドラム1 | ドラムセットのメンテナンス | | |
| | 10 | ドラム2 | ドラムセットのメンテナンス | | |
| | 11 | 楽器ごとのチューニング | チューニングの方法、実際に鳴っている周波数の把握 | | |
| | 12 | 照明機器1 | 照明機器の構造について | | |
| | 13 | 照明機器2 | ムービーゴと一般照明とLEDの役割 | | |
| | 14 | 期末試験 | | | |
| | 15 | 期末試験振り返り | | | |
| | 16 | 試験のフィードバック | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|------------------|----------------------------|------------|
| 科目名 | 実演実習Ⅱ | | 指導担当者名 | リヴァーズウェイ |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験： 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義： | 演習： | 実習：○ | 実技： |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的に見る力をつける | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | 楽器 音響機材 照明機材 | | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | セッションのルールと知識 | 授業のオリエンテーション | |
| | 2 | 12小節のブルース進行 | キーを変えコードと和音の感覚も鍛える。 | |
| | 3 | 8ビート、16ビート。 | リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。 | |
| | 4 | 裏のリズム。ディスコビート。 | IDM系リズムと曲の学習。 | |
| | 5 | 12/8ビート。シャッフル。 | シャッフルの感覚と曲の学習 | |
| | 6 | ビートシフト。感覚トレーニング。 | グループを出すための感覚の習得。 | |
| | 7 | バウンス。ファンク。 | スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。 | |
| | 8 | ハーフタイムシャッフル。 | ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。 | |
| | 9 | ボサノバ。レゲエ。 | ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。 | |
| | 10 | サンバ。 | 速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。 | |
| | 11 | ジャズ2ビート、4ビート。 | ジャズスタンダードを学習する。 | |
| | 12 | 奇数ビート。 | 奇数曲と感覚を学習する。 | |
| | 13 | テスト | 演奏によるテスト | |
| | 14 | みんなと演奏の評価 | できている箇所とできてない箇所の原因と反省 | |
| | 15 | フィードバック | | |
| | 16 | フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|-------------|---------------|------------|
| 科目名 | 実演実習Ⅱ | | 指導担当者名 | リヴァーズウェイ |
| 実務経験 | 株式会社リヴァーズウェイ勤務13年。ライブハウス等や音楽制作現場13年従事 | | | 実務経験： 有 |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 | |
| 授業方法 | 講義： | 演習： | 実習：○ | 実技： |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 | |
| 学習到達目標 | 作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的に見る力をつける | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | 楽器 音響機材 照明機材 | | | |
| 授業外学習の方法 | 楽譜と楽器を使用しての学習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 後期 | 1 | 難易度の高い曲の完成。 | 課題曲の分析 | |
| | 2 | 難易度の高い曲の完成。 | リズムを覚える | |
| | 3 | 難易度の高い曲の完成。 | コード進行を覚える | |
| | 4 | 難易度の高い曲の完成。 | メロディを覚える | |
| | 5 | 難易度の高い曲の完成。 | アドリブをみんなで回す | |
| | 6 | 難易度の高い曲の完成。 | 合奏 | |
| | 7 | 難易度の高い曲の完成。 | 進行を覚える | |
| | 8 | 難易度の高い曲の完成。 | リズムを覚える | |
| | 9 | 難易度の高い曲の完成。 | コード進行を覚える | |
| | 10 | 難易度の高い曲の完成。 | メロディを覚える | |
| | 11 | 難易度の高い曲の完成。 | アドリブをみんなで回す | |
| | 12 | 難易度の高い曲の完成。 | 合奏 | |
| | 13 | 難易度の高い曲の完成。 | 合奏 | |
| | 14 | テスト | ライブ形式 | |
| | 15 | 演奏の評価 | みんなに評価してもらう | |
| | 16 | フィードバック | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|---|------------------------------|-------------------------|
| 科目名 | 音響・舞台・照明総合Ⅱ | 指導担当者名 | パク スブン |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | ホールでのイベント運営にあたって、音響舞台照明各部門毎の必要事項を熟知し、ホールの安全基準に従い作業できるよう、ホール担当者とのコミュニケーションをとる。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | PC、筆記用具、音響機材、照明機材 | | |
| 授業外学習の方法 | プリントによる学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | この授業の意義 |
| | 2 | 音響機材の準備機材の搬入 | セッティング表を見ながら機材の準備をする |
| | 3 | 音響機材の仕込み回線チェック(OUTPUT/INPUT) | 仕込み図通り仕込みができ、チェックができる |
| | 4 | 音響スピーカーチューニング(メインとモニター) | 空間の特性に合わせてスピーカーの音作りができる |
| | 5 | 音響テクリハーとゲネプロ | リハサールとゲネプロの違いとやり方 |
| | 6 | 本番 | 本番 |
| | 7 | 照明機材準備機材搬入 | セッティング表を見ながら機材の準備をする |
| | 8 | 照明吊り込みシユート | 安全基準に従って作業をする |
| | 9 | 照明場当たりシーン作り | 演出案に乗っ取ってのシーン作りができる |
| | 10 | 照明テクニック、リハサール、ゲネプロ | リハサールとゲネプロの違いとやり方 |
| | 11 | ゲネプロの反省 | ミスの原因を徹底的に分析し、資料として残す |
| | 12 | 最終打ち合わせ | ミスのない本番運営のための最後の打ち合わせ |
| | 13 | 本番 | 本番 |
| | 14 | 反省 | ミスの原因を徹底的に分析し、資料として残す |
| | 15 | 後期期末 | 試験 |
| | 16 | 期末試験フィードバック | 期末試験フィードバック |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|--|---|-----------------|------------------------|
| 科目名 | 音響・舞台・照明総合Ⅱ | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 通年 前期・後期 | 対象学科学年 | 音響・ミュージック科 2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習:○ 実技: |
| 時間数 | 84 時間 | 週時間数 | 3時間 |
| 学習到達目標 | ホールでのイベント運営にあたって、音響舞台照明各部門毎の必要事項を熟知し、ホールの安全基準に従い作業できるよう、ホール担当者とのコミュニケーションをとる。 | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | |
| 使用教材 | PC、筆記用具、音響機材、照明機材 | | |
| 授業外学習の方法 | プリントによる学習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 前期の復習と今期の目標 | 修了公演に向けての準備を徹底する |
| | 2 | ホールの設備を知る1音響機構編 | 大ホールの音響構編を理解する |
| | 3 | ホールの設備を知る2音響機構編 | 大ホールの音響構編を理解する |
| | 4 | ホールの設備を知る3音響機構編 | 大ホールの音響構編を理解する |
| | 5 | ホールの設備を知る1照明機構編 | 大ホールの照明構編を理解する |
| | 6 | ホールの設備を知る2照明機構編 | 大ホールの照明構編を理解する |
| | 7 | ホールの設備を知る3照明機構編 | 大ホールの照明構編を理解する |
| | 8 | ホールの設備を知る1舞台機構編 | 大ホールの舞台構編を理解する |
| | 9 | ホールの設備を知る2舞台機構編 | 大ホールの舞台構編を理解する |
| | 10 | 大ホールでのイベント企画 | 大ホールの各機構を理解した上でのイベント企画 |
| | 11 | 大ホールでの音響仕込み図作成 | 実際のホールの平面図を利用し仕込み図を作成 |
| | 12 | 大ホールでの照明仕込み図作成 | 実際のホールの回路を利用し仕込み図を作成 |
| | 13 | 仕込み図検証 | 仕込み図通りに仕込みができるかを検証 |
| | 14 | 仕込み図検証 | 仕込み図通りに仕込みができるかを検証 |
| | 15 | 後期期末試験 | 企画書とプレゼンによるテスト |
| | 16 | 期末試験フィードバック | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|--|---|-----------------------|---|--------|
| 科目名 | 著作権概論 | | 指導担当者名 | 矢田部 翔子 |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 前期 | 対象学科学年 | 全学科2年 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 28 時間 | 週時間数 | 1週/28時間 | |
| 学習到達目標 | ビジネス著作権検定BASIC級の合格 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト | | | |
| 授業外学習の方法 | テキストの復習等 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 前期 | 1 | オリエンテーション/第1章 著作権とは何か | 試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的 | |
| | 2 | 第2章 著作権で保護されるもの① | 著作権で保護されるもの | |
| | 3 | 第3章 著作権は誰が持つ | 著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者 | |
| | 4 | 第4章 著作権の内容① | 著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性) | |
| | 5 | 第4章 著作権の内容② | 財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権 | |
| | 6 | 第4章 著作権の内容③ | 公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物 | |
| | 7 | 第5章 著作権はいつまで保護される | 著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護 | |
| | 8 | 第7章 勝手に使える場合がある① | 権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物 | |
| | 9 | 第7章 勝手に使える場合がある② | 教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係 | |
| | 10 | 第8章 著作物を伝達する者を保護する制度① | 著作隣接権とは | |
| | 11 | 第9章 勝手に使うとどうなるか | 著作権の侵害 | |
| | 12 | 第10章 著作権に関連する制度 | 知的財産権、情報モラルと著作権 | |
| | 13 | 検定対策1 | 模擬試験 | |
| | 14 | 検定対策2 | 模擬試験2 | |
| | 15 | 期末試験 | 検定本番 | |
| | 16 | 期末試験 | 検定本番 | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|----------------|------------------------------------|--------|
| 科目名 | 卒業制作 | | 指導担当者名 | バク スフン |
| 実務経験 | | | | 実務経験: |
| 開講時期 | 後期 | 対象学科学年 | 全学科 卒業年次生 | |
| 授業方法 | 講義:○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 時間数 | 180 時間 | 週時間数 | 6週180時間 | |
| 学習到達目標 | ・卒業生:2年間の集大成として学んだことを発揮する | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> | | | |
| 使用教材 | それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事 | | | |
| 授業外学習の方法 | 制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業計画 前期 | 1 | 作品制作開始 | 事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる | |
| | 2 | 作品制作2 | 個別添削を行いながら制作を進めていく | |
| | 3 | 作品制作3 | 中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても | |
| | 4 | | 可視化していく | |
| | 5 | 学科内プレゼンテーション | 学科内でプレゼンテーションを実施 | |
| | 6 | | 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く | |
| | 7 | | ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など | |
| | 8 | 発表を受けての修正と展示準備 | 各教室での展示計画と準備、 | |
| | 9 | | また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作 | |
| | 10 | 卒業・修了制作展 | 展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 | |
| | 11 | | ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 | |
| | 12 | | *学科内シフトにより登校 | |
| | 13 | | 展示終了後は撤収と作品保管をする | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| | 16 | | | |
| 履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |